

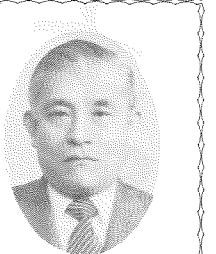


Title	イラク印象記
Author(s)	橋本, 道夫
Citation	makoto. 1979, 27, p. 2-4
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/86122
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka



イラク印象記

筑波大学教授

橋本道夫

フ ラ テ ス 河 の 流 域 か ら 始 ま つ た
と い う こ と を 私 達 は 世 界 史 の 中
で 学 ん だ。メ ソ ボ ラ テ ミ ャ 文 化 の
名 は 義 務 教 育 の 中 で 誰 も が 一 度
は 耳 に す る。イ ラ ク は この チ ケ
リ ス。ユ ー フ ラ テ 斯 河(二本の
大 河 で 海 に 近 く な つ て か ら シ ャ
レ ト・アル・アラブ)と い う 一 本
の 河 に な つ て ア ラ プ 湾 に 流 入 し
て い る。)の 流 域 を 国 土 と し て
い る 人 口 一 千 二 百 万 人 の 共 和 国
で あ る。

イ ラ ク は 今 シ リ ヤ や リ ビ ャ と
共 に ア ラ ブ 連 合 の 主 導 的 な 左 翼

革命によつて共和国となり、親ソ政権が誕生したが、千九百六十八年に再びクーデターによってバスク党が政権をなぎり現在の共和国政府となつてゐる。この政権はアラブの統一と、解放と、社会主義の三つをスローガンとしている。ソ連を中心とした国際的な共産主義グルーブとは一線を画し、現在もソ連よりはルーマニアやユーゴーと仲が良い。千九百五十八年の革命政権が国際共産主義

わなくて一体どんな国だらうと思つて行つてみた。ところが國の中に入つてみると確かに社會主義國であるが、あまりに日本で聞かされていたアラブの極左と革命という教条的なイデオロギー的な硬さとは全く違つたフレキシブルな、歴史と文化と人間味の豊かな國であることに驚いた。例えばアメリカと断交しているというのに二千人余の留学生がアメリカに行つており、リーダーの多くが西歐の教育を受け、夏休みにはイギリスやオ

ミタの氾濫は驚くべきもので、その他ダットサン、日野、三菱、ダイハツの自動車が走っており役所の局長の公用車は例外なくトヨタのスマートサルーンの新型というのには恐れ入った。又回教の国だから戒律がきびしいと思いこんで始めは恐る恐るみていたが、確かにラジオでは一日五回位いコーランが流れてくるし、立派なモスクがあちこちにあり、金曜日は休日でモスクに多くの信者が集つてゐる。食事に豚肉は一切出ないが、アル

小二百十(百二十七平方メートル)ある住居と都市計画と道路計画は古い町の一部を除くと全くすばらしいものをつくりつてあることに大きな驚きと感銘を受けた。私はこんなすごい家にどんな人が住んでいるのか興味をもつてあらゆるチャンスに聞いたり観察したりしたが、全く普通の人々が素朴なみなりと、中には羊や山羊などを飼いながら住でいるのに驚いた。街や公園でながめていると確かに人種構造が多彩であり、又身なりや労働をみてみるとおせじにも社会階層

てイラク政府の要求による国際協力事業団の事業として、同国環境計画立案に参加する機会を得た。イラクと言うとどこにある国か考える人が多いかもしれないが、バクダットという首都の名前をきくと誰でもアラビアンナイトの舞台だと気付かれ

スラエルの条約に強く反対してエジプトをアラブ連合から追出した国である。外交的には非同盟中立の立場をとり、ソ連に近く、アメリカとは国交を断交しており、以前に日本でハイジャックを国内にがばつて、訓練をしているのではないかというような情報が流れたこともある国

アラブ社会主義、非同盟中立といふ新しい路線を主張して、クーデターにより現在の政権の座についている。私は歴史で習つたメソポタミヤ地方の古代文化とアラビアンナイトのバグダッドは確かに小さなつて来るが、どうもアラブグループの極左の国といわれるイラクと、この歴史

展覧会のよう^にに米ソ独仏日伊蘭等の国々のものが走つておる。いろいろな場所で流れてくる音楽はアラブをはじめ、アメリカ、フランス、日本（橋幸夫）の歌のメロディーまで流れている（）。イギリス、ソ連、ラテン等のものを広く自由に流している。免税店では西欧のものがは

る四千戸以上に亘り、その多くは
るような庭付きの一軒建の住居
が大勢を占めており、一部に古
い家や土造りの家が残っている
が新しくつくられる住居は日本
では私達には高嶺の花のような
豪邸にあたるものばかりで、ご
く一部に三階建ての鉄骨の入つ
た集団住宅がぼつぼつ出来てい
るが、その世帯当たり床面積は最

ランダやスカンジナビヤにも自由に旅行している。国営イラク航空はアメリカのボーイングの七二七、七三七やジャンボを使用しており、私の泊ったホテルの広告にはアメリカ的豪華さという広告までつけてカートドを印刷していた。街を走る自動車は

コール類はかなり自由で国営ビル工場があつて昼食から飲めるし、又強い地酒もあるといふ。役所の人に招かれて食事をするとき、黒が必ず出されてくる一方パクダッドの市内や周辺の住宅はすばらしい都市計画のもので、日本で言えば最小のもので

ランダやスカンジナビヤにも自由に旅行している。国営イラク航空はアメリカのボーリングの七二七、七三七やジャンボを使用しており、私の泊ったホテルの広告にはアメリカ的豪華さという広告までつけてカードを印刷していた。街を走る自動車はまるで東西の自動車メーカーの展览会のように米ソ独仏日伊英とあらゆる国のが走つており、いろいろな場所で流れてくる音楽はアラブをはじめ、アメリカ、フランス、日本（橋幸夫の歌のメロディーまで流れている）、イギリス、ソ連、ラテン等のものを広く自由に流している。免税店では西欧のものがはんらんしていた。特に日本のトヨタの氾濫は驚くべきもので、その他ダットサン、日野、三菱、ダイハツの自動車が走つており、役所の局長の公用車は例外なくトヨタのストラーダーの新型というのには恐れ入った。又回教の国だから戒律がきびしいといつたが、確かにラシオでは一日五回位いコーランが流れくりし、立派なモスクがあちこちにあり、金曜日は休日でモスクに多くの信者が集っている。食事に豚肉は一切出ないが、アル

トル工場があつて昼食から飲めるし、又強い地酒もあるという。役所の人に招かれて食事をするトショニ黒が必ず出されてくる。一方パクダッドの市内や周辺の住宅はすばらしい都市計画のもので日本で言えば最小のものでも四千万円以上は間違なくするような庭付きの一軒建の住居が大勢を占めており、一部に古い家や土造りの家が残っているが新しくつくられる住居は日本では私達には高嶺の花のようない町の一部を除くと全くすばらしいものをつくりつてあることなく一部に二階建ての鉄骨の入った集団住宅がぽつぽつ出来ていているが、その世帯当たり床面積は最も百十と百二十平方メートルである。私はこんなすごい家にどんな人

が住んでいるのかに興味をもつてあらゆるチャンスに聞いたり観察したりしたが、全く普通の人々が素朴なみなりと、中には羊や山羊などを飼いながら住んでいるのに驚いた。街や公園でな

みているとおせじにも社会階層

はないと言えないが、二十年前
のバキスタンでみた植民地の痕跡と、著しい貧富の差と、何ともいえない無氣力さや多くの乞食とは全然違った新しい若い国民が生き生きとくつたくなく生活を楽しんでいるよう受けとれた。

国だけあってさまざまな制約のあることもこれも又事実である。第一に感じたのは情報統制である。高度の中央主権体制をとつており、役所の中で統計資料がきわめて乏しく、又公表されるデーターは非常に限られており、公表データー以外には全く近よることが出来ない。私達は政府機関の係長、課長補佐、課長、部長、局長に相当する人々の中にまざり込んで仕事をしたわけであるが、局長ランクは別としてその以下の責任の掌にある人々ですら詳細な統計データーを持ち合せていないのは驚くばかりであり、それは計画省の統計局が集めて整理をしているので我々にはわからないという答があまりに多いのには閉口した。これは何もその担当者の程度が低いということではない。担当の責任者として我々が接した人は若いつれッシュマンからト

育水準と専門職業人、技術者として水準は実に高くしつかりしている。貧弱なビルの中にも小さい図書館があつてイギリス、アメリカ、国連関係の資料はよくとりそろえて読んでいる。実務知識水準も大へんしつかりしており、下手なことは言えない感じた。ただ悲しいことに国全体としては七〇年代初めのユネスコのデーターでは文盲率が七〇%であり、今やっと義務教育制をはじめ、又文盲追放のための義務制の成人学校を昼間も夜間も各所で活潑にやっており最も最近の文盲率は四〇%ということになっている。日本大使館で伊達大使とお話しをしたときに「一握りのエリート」ということを言っておられたが確かにそのような面もあるが、どうもかなり大きな進歩と変化が進行しつつあるのではないかと感じた。

この国はアラブ産油国の一つでイギリスににぎられていた石油を国営化し、更に千九百七十三年のOPECのオイルショック以来原油が四倍に値上げされたので大巾な黒字国となつている。国の収入の五十一%は原油収輸出収入であり、今この原油收

入の割合を四十七%にさげようとして社会経済発展計画を進めている所である。従つて彼らは金はあるから金で援助してくれとうことを強調している。乞食は禁止されており、私は三週間で二人だけ出会ったのみである。仕事はあるので働けば食べられてしまうので乞食は強く禁止しているとのことであつた。これは東南アジア諸国に対して技術援助を行つた場合と全く根本的に違う点であるということを同様に言つていた。四十三万平方糸本は一億一千五百万)で、石油資源と水資源に憲まれ、七千年の歴史、二十年間に二百年余の回教の伝統と、三百余の独立の歴史、古来メソボタミヤは歴史の興亡回の社会主義革命の歴史がこの盛衰の中で東西南北の民族と、通商と、文化の交流点となつた信を創りつづあるように思えた。

所である。西欧文化の源流も実質流れを受けている。これは私の全く認識不足と教養の欠如に帰因していたものであるが旧約聖書、新約聖書、コープランは全く共通の一つの流れのものであり、回教はユダヤ教やキリスト教を超えて更に原流のアッラーの神にもどれということをいつており、何も旧約や新約を否定したものではなく、ただ社会体制としてのニダヤ教、キリスト教の宗教、政治、経済の体制を否定しているのみであることを三週間の間にヨーランを読んで始めて知らされたわけである。

日本におけるイラクに対する認識は、アラビアンナイトとバグダッド、アラブの極左と親ソ国という極めて均衡を失いた、偏重した目で見ている、又は間かされていてることをつくづく感覚していることである。

写真機を持つている人は殆んどみられない。軍事施設や空港での撮影禁止は当然としても極られるばかりのきびしい制約を加えていることである。

には禁止されている。英文タイプの持込みは事実上不可能であり、英文タイプを利用するのも制約されている。私はタイプを使って考えをまとめるので、この点は非常に苦労した。しかし特別の努力によって最終の四日間やっと使うことが出来たが、これも番人付きである。コピーの機具は古風なものが局長室の机上に置かれている。地図は観光用の地図以外には見当らない。都市計画などの地図はない。勿論あるがコピーの入手も出来ない。地図を示して説明をするには殆んどなれない。これは軍隊や警察の交信がきけるからということである。新聞はアラビヤ文字があるが、英字新聞も一部発刊されている。これには宣伝臭もあるが、各国の記事をかなり事實として読めないので私にはわからぬ。物語にのせておいた所もある。 特に感じたのはイラン情勢については全く中立といった感じで、そこまで運の宣伝は全くみられない。ブレジネフがシリヤに行つたと数行事實を報道しているのみである。

土地利用、立地、都市計画、建設及建築、投資、生産、通商、經濟計画をすべて中央で統制しているので環境計画や行政とし

て石油と水には恵まれているが夏季には五十六度を超える想像も出来ない酷暑や、荒漠たる砂漠、塩水化などのきびしい自然

でまさに強力な徹底したこと

が行われる反面情報統制などの硬苦しさはさけられない。国土

は日本と全く違っていた。新し

い汚染や環境破壊は全くきびしく抑えられているが、既存の公

害はたれながらでありそれに今

とり組もうとしている。マラリヤや住血吸虫などの地方病はこ

の十年間に驚くばかり改善され

ていた。イラクは日本に対して大きな関心を持っており、私等の接した人々は上から下まで非

常に親日的なにはおどろかされた。

古くて若いこの国が今環境計画をスタートしようとして体制

の全く異なる日本に指導を求めたことに大きな責任を感じた。

(前 環境庁大気保全局長)

